

## 報恩講勉強会

講師：高来 敬和 様

日時：2023年9月6日

場所：真宗大谷派（東本願寺）金沢教務所

石川県は浄土真宗を信仰される方が多い地域です。

今回は、真宗大谷派のお話が中心となります。

Q. お東（真宗大谷派）とお西（本願寺派）で報恩講の日が異なるのは何故？

A. 報恩講とは、親鸞聖人ご命日をご縁として、営まれる法要のことです。親鸞聖人は1262年11月28日に90年の生渥を終えられました。三十三回忌より、曾孫である覚如上人が毎年営む法要を報恩講としました。

御伝紗に「聖人弘長二歳 壬戌 仲冬下旬の候より、いささか不例に氣まします。自爾以来、口に世事をまじえず、ただ仏恩のふかきことをのぶ。声に余言のあらわさず、もっぱら称名たゆることなし。しこうして、同第八日午時、頭北面西右脇に臥し給いて、ついに念仏の息たえましましおわりぬ。」とあります。

「聖人弘長二歳 壬戌」は1262年、「仲冬」は11月、「下旬」は21日～  
「同第八日」は21日から数え8日目（11月28日）  
体調を崩された11月21日から、ご命日の11月28日が報恩講となります。

お東は旧暦の日付のまま新暦の日付で、お西は新暦に換算して報恩講を行うため、異なる期間となります。

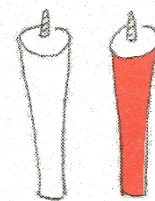
お東 11月21日から11月28日

お西 1月 9日から 1月16日

Q. ろうそくの色の用途は？

A. 真宗大谷派では、基本の色は「金」「銀」「朱」の3色のろうそくが使われます。白は本来なかった色ですが、現代では普段使いとして用いるようになりました。

金蠟	結婚式・慶事
銀蠟	通夜・葬儀・告別式
朱蠟	百か日からの法要・年忌法要・報恩講など・金蠟の代用
白蠟	一般の法要・朱蠟や銀蠟の代用



※お西は七回忌からの法要が朱となります。

東洋では命日を大切にしている慣習があります。故人の命日をご縁に集まり、お念仏の教えに出会う喜ばしい機会ですので、朱ろうそくを灯します。

Q. 正信偈や恩徳讃って何？

A. 正信偈は親鸞聖人の教えです。

和讃の1つです。親鸞聖人がだれもが念仏の教えに触れられることを願い、わかりやすく歌として伝えたのが和讃です。

Q. お齋汁って何？

A. お齋（とき）とは、法要後の会食のことを言います。内容は地域によって異なりますが、その中の汁物が石川県でお齋汁やいとこ汁と呼ばれています。親鸞聖人の好物であった小豆や豆腐を中心に各種野菜をゆっくりに煮こんで味噌で仕立てた汁物です。

高乗様には、お仏壇やお内仏のお話もしていただきましたが、今回は報恩講にまつわるものをまとめました。またの機会にご紹介させていただきます。

・・・もう一つ、おまけのお話・・・

皆さんは一張羅という言葉を使いますよね。持っている衣服のなかで最もよいもののこと差す使い方が一般的です。たった1着きりの衣服のことという意味もありますが、現代の生活では馴染みませんね。その他、たった1つだけのかげがえのないものについて表現する場合もあるそうです。

いずれにしても大切なものという意味合いは含んでいる言葉です。

ところで一張羅の語源をご存じですか？

一挺蠟（いっちょうろう）、蠟はろうそくのことで。

平安時代から戦国時代には、ろうそくは大変高価なものであったため、来客をもてなそうとろうそく買おうにも1本しか買えない。そんな様子を「一挺蠟燭（いっちょうろうそく）」と表したことに由来してできた言葉だといわれています。

報恩講には朱ろうそくという一張羅に灯りをともし、お勤めをしましょう。

